

プロトコール名 乳癌 PTX+アバスチン療法

適応 手術不能又は再発乳癌

投与期間 4週を1コースとして使用

投与計画	薬剤名	基準量
	パクリタキセル	90 mg/m ²
	アバスチン	10 mg/kg

薬剤名	投与量	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
パクリタキセル	90mg/m ²		↓							↓							↓													
アバスチン	10mg/kg		↓														↓													

(day1、15)

- ①生食100ml(ラインキープ)
- ②生食50ml+ビスマラー1A(30min)
- ③生食20ml+ファモチジン20mg 1A (iv)
- ④グラニセトロン1B+オルガドロン4A (30min)
- ⑤生食250ml+パクリタキセル 90mg/m² (1hr)
- ⑥生食100ml+アバスチン 10mg/kg (* 初回90min、2回目60min、3回目以降30minに短縮可)
- ⑦生食50ml (5min)

ファモチジンiv					
↓					
生食100ml	ビスマラー 生食50ml	グラニセトロン オルガドロン	パクリタキセル 生食250ml	アバスチン 生食100ml	生食50ml
	30分	30分	1時間	*	5分

(day8)

- ①生食100ml(ラインキープ)
- ②生食50ml+ビスマラー1A(30min)
- ③生食20ml+ファモチジン20mg 1A (iv)
- ④グラニセトロン1B+オルガドロン4A (30min)
- ⑤生食250ml+パクリタキセル 90mg/m² (1hr)
- ⑥生食50ml (5min)

ファモチジンiv				
↓				
生食100ml	ビスマラー 生食50ml	グラニセトロン オルガドロン	パクリタキセル 生食250ml	生食50ml
	30分	30分	1時間	5分

パクリタキセルは0.22ミクロン以下のインラインフィルターを通して投与すること
パクリタキセルはDEHPフリーの点滴セットを使用して投与すること

パクリタキセル製剤は無水エタノールを含むため、アルコール過敏の有無・通院方法を確認

アバスチンは生食で希釈すること

出血・塞栓症状に注意すること
創傷治癒遅延を起こすため、手術からの間隔を確認すること

●休薬・減量基準

・次表の基準を満たせば、実施可能

	day 1	day 8 及び day 15
白血球数	3000/mm ³ 以上	2000/mm ³ 以上
好中球数	1500/mm ³ 以上	1000/mm ³ 以上

尿蛋白 2+以上でアバスチンの継続について確認

・次表を目安にパクリタキセルの減量をおこなうこと

AST・ALT		T-Bil	投与量
10×ULN未満	かつ	1.26～2×ULN	25%減量
10×ULN未満	かつ	2.01～5×ULN	50%減量
10×ULN以上	または	5×ULNを超える	中止